

歴史遺産と景観、

歴史的遺産と景観を破壊する鞆港埋立て架橋計画を強行しようとする福山市。高木議員は、世論を無視する無謀な計画は中止せよ、と迫りました。

市長は、市内の集会で、架橋計画について「鞆と言えば橋と言えるくらいにしたい」「景観を壊すと言われた京都タワーもランドマーク（土地の象徴となる建造物）になった」と講演。市長の発言は、鞆の歴史的・文化的な価値への見識が疑われるものです。高木議員が鞆の歴史的・文化的価値に対する認識を厳しく問

鞆港埋立て架橋 中止を

いただきましたのにたいし、市長は「（架橋は）後世に誇れるような建造物になる」と答弁しました。

県が埋立て免許申請の暴挙

日本共産党が県に抗議、国に要請
広島県は六月二十三日、鞆港埋立て免許の認可を国に申請しました。

日本共産党は六月三十日、県へ申請を取り下げるよう、国土交通省に免許を認可しないよう、要望書を提出しました。

鞆港の世界遺産登録を求める署名は、現在九万筆を越え、歴史的景観の保存を求める世論は国内外で急速に強まっています。

地元住民らは、免許差止の裁判をおこしました。今年二月には、広島地裁が、もし免許が認められた場合には「景観を現状に回復することは著しく困難」として、事業による重大な損害が生じるとの認識を示



県へ免許申請取り下げを求める党議員団＝県庁、6月30日

排水権を持つ住民全員からの同意は得られていません。市民団体が提案している「山側トンネル」案との比較考量も不十分なままです。免許申請の条件は全く整っていません。党議員団は、「認可申請は、根本的な問題を無視して計画を強行する暴挙」と県に申請撤回を求めました。

環境を壊すな！

福山城遺構

福山城外堀の舟入状遺構。中央が御水門。左上に二重櫓跡。

駅前地下送迎場予定地で発見された福山城外堀遺構について、全面保存を願う市民の世論が広がっています。

これまで外堀の船着き場である舟入状遺構が見つかり、御水門の石垣や柱穴、二重櫓跡の石垣などが発掘されています。

研究者は、「立派な天守閣と三重櫓が立ち並び、全国五指の巨大な城郭をしのばせるもの」と高く評価。文化庁も、「国（史跡）指定の追加も視野」に入れ、遺構を壊す現計画に強い懸念を表明しました。



高木議員は、遺構全面保存の立場から市長の認識を問いました。市長は、「築城当時の規模が判明し、明治期以降の土地利用の変遷がわかる」旨、答弁。遺構の歴史的価値に目をそむけるかのような態度でした。高木議員は、計画を白紙撤回し、市民や有識者等を含めた「（仮称）駅前整備計画策定委員会」を新たに設置せよ、と求めました。市民合意による、外堀や舟入状遺構の全面保存の方法について、みなさんと知恵を出し合い、がんばります。

型路

「住みなれたまちを壊さないで！」 住民反対の公害道路は中止せよ

福山道路、福山沼隈道路、福山西環状線などの大型道路計画は、住民のコミュニティを分断し、騒音・大気汚染により住環境を破壊するものです。建設費は三路線だけで約二千九百億円、一辺あたり一千万円。

建設予定地の地権者からは、「まだ合意に至っていない人が多いのに、強引に事業を進めることは認められない」との声があがっています。福田内閣は国民世論に押され、「道路特定財源の一般財源化」

を閣議決定。高木議員は、「大型道路建設は中止せよ」と市長にせまりました。市長は、「見直しは考えてない」と答弁。日本共産党は、住民主人公のまちづくりへ、みなさんと力を合

市民の命を守り、安心・安全なまちづくりへ

水路転落防止策急いで

住宅耐震改修費への補助、早急な学校の耐震化を

六月十七日夜、御幸町の用水路に高齢の男性が自転車ごと転落し死亡する事故が発生しました。党市議団は、現地を調査し、羽田市長に要望書を提出。全市で水路転落防止対策を抜本的に強化するよう求めました。



事故現場を調査

岩手・宮城内陸地震（マグニチュード七・二）は甚大な被害を及ぼし、被災者へのゆきとどいた生活再建支援が求められます。今回の震源域は、「地震が三十年以内に発生する確率はほぼゼロ割」とされています。日本のどこでもマグニチュード七クラスの地震がおりると想定した震災対策の必要性が求められます。市長「学校耐震化に努める」国の制度改正で公立幼稚園・小中学校施設の耐震化事業への補助金が引き上げられました。高木議員は、この機に一気に耐震化をすすめるよう求めました。市長は、「法改正の趣旨を十分踏まえ、学校施設の耐震化に努める」と答えました。住宅耐震改修費にも助成を市は、住宅耐震診断費に上限二万円を助成しています。高木議員は、住宅の耐震改修費にも助成する制度をつくるよう求めました。